

ステークホルダーからのメッセージ

日本ユニシスグループCSR報告書2007の記載内容について、特徴や成果、改善内容について意見をいただいております。

「ビジョンの理解と共有」 それがサービスのスタートライン



ユニシス研究会副会長
(フコク情報システム株式会社 専務取締役)

望月 琢彦様

Profile

常に先進的な情報システムの構築を実現するために「プロフェッショナルな人材の育成」を重視した経営を実践されている。2004年、ユニシス研究会の関東支部幹事、2006年から副会長。

「人」の品質こそが、CSRの品質である——という本報告書のメッセージは、ITを通じてCSRを実践している日本ユニシスさんが日々の活動において「大切にしているもの」を、非常に分かりやすく表現していると感じました。また、社員が十分に力を発揮できるような環境づくりに取り組んでいること、その取り組みが社員の「生きた言葉」として語られていることは高く評価できることだと思います。日本ユニシスさんが掲げる「人」の品質は、顧客のビジョンを理解・共有することから始まり、それをモチベーションや顧客の価値向上につなげていく——という姿勢に基づくもので、今後もそうした姿勢を持ち続けて欲しいと思います。

ユーザ会副会長の立場から言えば、ユニシス研究会はさまざまな活動を通じて、会員のみならず、お互いのビジョンや価値観に触れ、それを理解し共感することで人が育ち、人のネットワークも生まれてくるものだと考えます。今後も会員のみならず大いに活用し成果を上げていただけるように努めてまいりますので、日本ユニシスさんには引き続きご支援をお願いいたします。

ビジネスパートナーと ともに成長を



ユニシス研究会関東支部幹事
(株式会社日本トラフィックコンピューターセンター
取締役営業部長)

三雲 義孝様

Profile

CSRの視点を取り入れ、コミュニケーションを基本とした「人」重視の経営を実践されている。1994年よりユニシス研究会の関東支部幹事、研究活動部会長。

今回の報告書には、多くの社員や顧客のメッセージが掲載されており、親しみやすく、また分かりやすいものになっていると思います。そして「誠実に事業に取り組むことがCSRであり「人」の品質がCSRの品質になる」、「そのために社員にとって働きやすい環境を提供するのが経営の役割」という舛井社長の考え方には共感しました。また人事制度や両立支援制度の改定など、経営の実行力にも敬意を表します。当社でも「企業の社会的責任は社員の社会的責任」であり「社員の成長が企業の成長」との立場から中期経営計画を策定しており、日本ユニシスさんのCSR活動は大いに参考になりました。今や、ITは社会にとって必要不可欠な基盤となっています。その整備・構築は一つの企業の力だけでは実現が難しく、多くのビジネスパートナー（協力企業）との連携が必要になります。次回の報告書では、非常に重要なステークホルダーであるビジネスパートナーとの関わりについても言及していただきたいと思います。ビジネスパートナーとともに成長することもCSRの一つの視点と考えるからです。

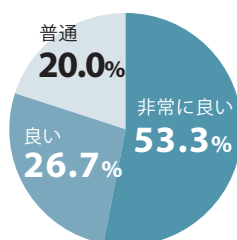
日本ユニシスグループCSR報告書2006に対する評価について

お客さまからの評価

コメント(抜粋)

- CSRという“かたい”イメージのCSR報告書の中で、若手やシニア社員の元気な顔はとても良いと思います。
- 「社員の満足度がお客さまへのサービスの向上につながる」という観点は、とても良いことだと思います。
- この種の理念的なものは、本音と建前の違いが大きくなりやすく、建前を語るのはやさしいが、その具現化のためには地味な活動が必要で、そのような組織体制になっていることを願っています。

日本ユニシスグループのCSR活動について どのように思われますか



有識者からの評価

コメント(抜粋)

- 社員が多数登場していることで、日本ユニシスグループに対する親近感がわきました(コンサルタント)。
- 本業でのCSRへの取り組み姿勢を社員が直接語ることによって、生き生きしたものになっていると考えます(NPO代表)。

高いレベルで、 思いを共有すること



日本ユニシス労働組合
中央執行委員長
村高 浩司

Profile

1992年日本ユニシスに入社後、営業部門に配属となる。デリバリーフード業界を担当した後、製造業や自動車業界を担当する営業として一貫して新規顧客を開拓。2006年7月から日本ユニシス労働組合中央副執行委員長、2007年7月から中央執行委員長。

本報告書にもあるように、社員は会社にとって重要なステークホルダーの一つです。会社が社員を尊重し、自分たちが着実に成長できる環境、安心して仕事と生活を両立できる環境などが提供されることは、私たち社員にとって非常に大切な要素です。その結果、社員の働き甲斐が向上し、お客さまに対してもより良いサービスが提供できるようになることは言うまでもありません。

そしてそれ以上に重要なのは、「会社と社員が高いレベルで「思い」を共有すること」だと考えます。「思い」を共有し、相互理解が深まることによって私たち社員のパワーが最大化されます。結果的に、お客さまに対してより高品質なサービスを提供できるようになり、株主・投資家のみならずへより多くの還元が実現でき、さらには地域・社会に対してもより誠実な企業であり続けられるのだと思います。労働組合としても、日本ユニシスグループ全体が、社員やその家族はもちろん、お客さま、株主・投資家のみならず、地域・社会など、すべてのステークホルダーから信頼される企業であり続けるために、今後とも最大限の協力を続けていきたいと思っています。そのためにも労働組合と会社の双方で引き続き切磋琢磨していきたいと思っています。

人の和を大切にすることが CSRの基本



日本ユニシス労働組合
中央副執行委員長
等々力 陽子

Profile

1992年日本ユニシス・ソフトウェアに入社後、RDMS1100主管部を経て、システム開発に従事。2003年に品質管理室、PMO。2006年11月日本ユニシス・ソリューション労働組合を結成、執行委員長に就任し、2007年7月1日より日本ユニシス労働組合と統合、現職に至る。

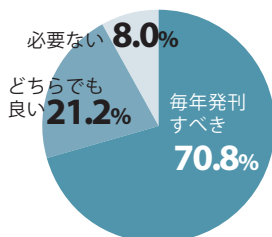
多くの社員が登場することにより、身近に感じられる報告書になっていると思います。報告書の中では育児関連制度を利用した社員の声が掲載されていますが、こうした制度を利用された方々は、その体験をもとに同僚や後輩が制度の取得を検討する場合には、協力やアドバイスをさせていただきたいと思っています。そうすることで生まれる社員同士のつながりが社員と会社、会社と地域・社会といった関係での「助け合い文化」の醸成に役立つと思うからです。私たちは2006年に日本ユニシス・ソリューションにおいて労働組合を結成（2007年7月より日本ユニシス労働組合へ統合）しましたが、結成準備の多忙な日々のなかで感じたのは、「忙しい時にこそ、周りの人と協力しながら活動を続けられる人間関係や風土が大切である」ということでした。労働組合の活動は、一人ひとりの組合員がお互いに助け合いながら運営していくものです。それは会社においても同様で、今できることを仲間と考え・行動すること、そしてその総和が日本ユニシスグループのCSRになるものと考えています。人の和を大切に、日々の行動がCSRであるとの視点に立ち、会社との信頼関係をより強固なものとしていきたいと思っています。

社員の評価

コメント(抜粋)

- 現場担当者の声が聞けて良いと思いました。
- 「読みやすい、分かりやすい、読んでみたい」報告書の作成という編集方針には賛成で、今後も多くのステークホルダーが登場することを期待しています。

CSR報告書を発刊することを どのように考えますか



編集方針として掲げた「読みやすい、分かりやすい、読んでみたい」についてはお客さまおよび社員から共感していただけたと考えています。CSR報告書2007も同じ編集方針のもと製作いたしました。今年度もいろいろなステークホルダーのみなさまに共感していただけるCSR活動をめざしていきたいと考えています。